

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602272		
法人名	有限会社 徳栄会		
事業所名	グループホームころ		
所在地	福岡県久留米市城島町下青木1010番地2		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果確定日	平成29年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

【A棟】利用者様の要望が多様化する中、利用者本位で安全な環境を作れるよう職員全員が取り組んでいます。また、ご家族様に信頼して頂けるよう、情報を共有し利用者様に寄り添う支援をしています。特に食事と健康面に力を入れております。食事面では、事業所経営者の畑で採れる米や野菜を使用し毎日手作りの料理を提供しています。旬の食材を使い季節感を味わっていただけるよう行事食にも力を入れています。健康面では、日頃の表情や言動からくみ取り早期に気づき対応できるよう、看護師と連携しながら取り組んでおります。利用者様・ご家族の笑顔を見ることで、職員の喜びにつながりサービス向上につながるよう努めています。

【B棟】介護の重度化と高齢化が進む中、利用者の安全を確保し、安心して暮らせる生活の場としてご家族のニーズに満たせるよう取り組んでいます。施設では食事と健康面に特に力を入れ、自家製米や減農薬野菜を使った手作りの料理とおやつを提供しています。健康面では異常の早期発見に努め、日頃の言動や表情を汲み取り観察しながら看護師、医師と連携を図っています。また、地域との関わりでは介護予防教室を通して地域との連携を強化し、徘徊、災害時の対応などの協力をお願いしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームころ」は、周囲を田畑に囲まれ、閑静で開放的な環境下にあり、2ユニット型だが、同一敷地内で独立して棟ずつ運営されている。平屋づくりだが天井が高く、明り取り窓や周囲の開放的な環境のために室内は非常に明るく、また、それをまとめる管理者の人柄もあり笑顔の絶えない事業所である。最近では職員研修にも力を入れており、今年初めて行った経営計画発表と合わせて一体的な質の高いサービスを目指している。法人代表が農家でもあることから、地元で採れた新鮮なコマや野菜を使った家庭的な料理を安価に提供しており、入居者や家族にも非常に喜ばれている。法人は系列ですぐ近くに有料老人ホームも経営しており、介護度に合わせた転居など一体的な運営もなされている。改善の取り組みにも積極的に、今後も地域と共に発展していくことが期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果						
自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲げ 職員が理念に基づいた介護を行っている。職員が利用者の心に寄り添って支援している。 会議室に理念を掲示し 勉強会・定例会時に職員全員で唱和している。	職員全員が理念を基本に於いて理解し、実践を行っている。理念は玄関入口と会議室に掲示し日頃から意識して業務の中で取り組んでいる。	元々グループホーム独自の理念が作られており、2年前からは玄関やスタッフルームへの掲示も徹底し、常に目につくところにあることで職員の間にもなじみが出来てきた。29年度から新たに法人理念を刷新し、今から職員全員への発表と共有を進めていく方針である。	施設長を主体に理念共有の取り組みも進んできているが、管理者や現場のリーダーにも落とし込まれ、年度や月ごとの目標や取り組みを職員主導でも取り組み、具体的にすることで日々の実践につながっていくことにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域の神輿の立ち寄り所として毎年立ち寄ってもらい利用者や子供たちのふれあいがある。施設の行事に地域の方が慰問に来られ、利用者との久しぶりの再会で話され笑顔が見られる。	地域の自治会に加入し様々な地域行事等に参加している。地元夏祭りでは地域の子供神輿に来て頂いて、地域の方と交流している。また地域のボランティアの受け入れもしている。高齢者への介護予防教室(介護相談、レクリエーション、頭の体操等)で地域との繋がりを実施している。	地域の祭りの神輿の交流は以前からあり、今では恒例行事となっている。地域ボランティアの受け入れは多く、演奏やひょうこ踊り、手品など様々な演目で年に数回慰問に来られている。関連施設と一緒に催しを企画することもある。数年前までは敷地を利用して地域の方も招いた夏祭りをしてきたが現在は出来ない。	地域の方が気軽に入れるような取り組みとして、近隣の地域密着事業所や、介護事業所と協力して、情報発信や、受け入れの取り組みがなされることにも期待したい。職員同士で話し合い、現実的に出来る取り組みを、地域包括や社協、民生委員など横のつながりを活かしながらなされる事が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会の集まりに職員が参加し介護予防教室を実施している。健康体操やレクリエーション等で顔なじみになり、介護に関する疑問、質問、相談等も受け付けている。	地域の長寿クラブと連携し、高齢者への介護予防教室(健康相談、介護相談、レクリエーション、頭の体操等)を2ヶ月に1回程度実施している。また福祉に関する疑問、質問、相談等も常時受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表や市区の代表、市の職員などから意見や要望をいただいている。家族には会議開催日時や会議内容を送付している。参加者同士も馴染みの関係になり 地域交流の場となっている。	会議では、施設の現状報告を行い、家族代表、地域の役員、市の職員などから、意見やアドバイスを頂きサービス向上への参考としている。	系列の小規模多機能と同日の別時間に開催し、老人会、地域代表、民生委員など地域の方からの参加は多い。家族は代表に参加してもらい、議事録は全員に郵送報告している。写真付きのお便りや、ヒヤリハットなども併せてこと細かく報告されている。グループホーム交流会でのつながりから、運営推進会議の相互参加の話が進み、今月実行予定である。	会議時に意見を頂くこともあるが、積極的に意見を聞く取り組みとして出欠票に質疑や意見を聞く項目を設けて、テーマ決めや話し合いに活かしてはどうだろうか。また、要望で上がっている施設見学や食事会などの実現にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や連携を図り問題発生時のアドバイスをいただいたり、生活保護受給者へは生活支援課のケースワーカーと連携し助言をいただいている。	日頃から市担当者や連絡を密に取りながら連携を図り、アドバイスを頂いている。問題が発生した時には、素早い対応ができるよう努め、サービスの向上につなげている。	運営推進会議にもほぼ毎回市の担当者が来ており、その際に質問などすることもできる。生活保護の方の受け入れもあり、入居相談や、定期相談もされている。地域包括とも顔なじみになっており、相談事もしやすい。介護申請は近くの支所で行うが何かあった時は役所の担当課と連絡をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や社内勉強会で身体拘束、言葉の拘束をしないケアについての理解を深めるよう指導を行っている。 転落防止のためのベッド使用があったが、ベッドを低床にし小まめな観察をし 身体拘束はなくなった。	会議や社内勉強会で、職員全員の理解と意識、正しい知識を持つよう、身体拘束のないケアについて勉強し話し合っている。日頃の介護に活かしている。	昨年外門にセンサー兼監視カメラを設置して管理しており、自由にしてもらいながらも安全と防犯に取組めるようになった。ユニットの入り口は常時開放しており、夜間のみ施錠している。徘徊癖のある方には見守りや付き添いで対応している。外部研修や内部での伝達、内部研修も毎年定期的に行い、スピーチロックなどに関しても注意している。	

H29.1自己・外部評価表(GHこころ)

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や社内勉強会で高齢者虐待防止法の理解と常日頃からの意識づけを徹底し、法令を遵守したサービスを提供している。言葉による心理的な虐待にも注意を払い防止に努めている。	会議や社内勉強会で、職員全員の理解と意識、正しい知識を持つよう、身体拘束のないケアについて勉強して話し合い、日頃の介護に活かしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用されている利用者はいないが、社内勉強会で職員が制度を理解できるよう努めている。	社内勉強会の議題に取り上げ、最新の資料を基に職員全員が理解し、具体的に必要とされる場合は話し合い、活用する事ができるように取り組んでいる。	入居時に外部の身元保証サービスを利用されるようになった方がおり、やりとりを通して後見制度についても理解している。内部研修で制度に関して勉強し、マニュアルやパンフレットも整備されている。必要時には外部の専門機関とも相談して対応する。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧な説明を行っている。利用料金やリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連系体制については、特に留意し詳細な説明を行い同意を得るようにしている。	契約時に十分な時間を設けて丁寧に説明を行っている。また利用者や家族の思いを尊重し、納得された上でサービスを提供する様に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には相談や意見を言いやすい関係作りに努めている。得られた意見を職員間で共有し運営に反映させている。毎月介護相談員が来所され、職員には言えないことも相談できる体制をとっている。	施設に苦情受付箱を設けている。また契約書に苦情受付窓口を明記している。毎月、介護相談員が来所され、職員に言えない事も相談できる体制をとっている。	身寄りのない方や、家族が遠方にいる方も多いが、半数程度は家族の面会があり、意見などはその際に聞くことが多い。2ヶ月ごとに写真付きの「こころだより」を発行し、何かあった際は随時電話連絡をしている。本人から家族にあった連絡を家族を通して聞くことがあり、対応もしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会議、幹部会議を開催し、職員の意見が反映しやすい雰囲気を作っている。また施設長との個人面談を行い、職員が普段思っていることや不満を聞いてもらう。それによって働きやすい職場の雰囲気作りに努めている。	毎月、定例会議、幹部会議を開催し、職員の意見が反映しやすい雰囲気を作っている。また施設長との個人面談を行い、職員の思いや不満を聞き、働きやすい職場作りに努めている。	毎月の定例会議はユニットごとに行い、基本的には正社員が原則参加し、入居者の状況などに関して話し合い、意見が出しやすいように働きかけ、ケアのやり方なども職員同士で共有している。勉強会は全体で開催し、その際に情報共有もしている。年2回の個別面談があり、その際に相談なども出来る。	職員からあがった要望に対しての回答、検討結果などが出される
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に研修の機会を与えられるよう配慮している。資格取得者に対しては給与や賞与等に反映するよう努めている。	法人として職員の処遇改善に取り組み、給与水準の向上、労働時間の短縮、やりがいを実現する社内風土の構築など職場環境の改善などに取り組んでいる。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	個々の職員が、それぞれに持つ能力を發揮できるよう考慮し採用、配置を行っている。無資格、無経験でトライアルで入社した職員も正社員になっている。地域の青少年育成(剣道の指導)をしている職員は勤務日の調整をしている。	職員の採用にあたっては性別や年齢ではなく資格、経験、能力、仕事への意欲を重視するようにしている。その上で個々の職員が、それぞれに持つ能力を發揮できるよう考慮しながら人事を行っている。	女性の比率が高く、20～70歳代まで年代の幅も広い。無資格者の採用もあるが、研修や勉強会の案内もあり、こころ1、2年で積極的に取り組みを始め、研修機会も増えた。職員も特技を活かしてサービスに取り組み、自分の生活も大事にしながら業務との両立を図っている。	

H29.1自己・外部評価表(GHこころ)

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や勉強会で人権教育を指導し、利用者の人権を尊重するように努めている。	会議や勉強会で人権教育を勉強し、利用者の人権を尊重するように努めている。	市などが行う、人権に関しての外部研修に管理者が主に参加し、内部での伝達も行う。会議などでも入居者の人権に関して話し合い、理念にも尊敬の念をもってケアに取り組むことを掲げている。	外部研修参加時には内部伝達も行うが、資料閲覧や資料貸し出しなどによって、管理者以外の職員にも人権に関する啓発活動が継続的になされていくことにも期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内勉強会を毎月実施。外部研修の受講を実施し、伝達講習することにより職員の質の向上を図っている。施設長により定期的な面談を行っている。同事業所内の役職者研修を外部講師を迎え行っている。	年間研修計画を作成し、内部及研修を毎月実施している。外部研修についても定期的な受講させ職員の質の向上を図っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会に参加し研修会への参加、情報交換を行っている。その他、包括主催のGH交流会にも参加している。	久留米市介護福祉サービス事業者協議会に参加し研修会への参加、情報交換を行っている。その他、包括主催のGH交流会にも参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が直接ご本人と会って現在の状態や不安を理解し本人との信頼関係作りにも努めている。	職員が直接ご本人と話し、現在の状態や不安、要望を理解し、信頼関係作りにも努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に本人、家族と面談を行い、要望や不安なことを聞き取り、サービスに生かしている。また家族の介護負担が軽減できるようにしている。	利用前に本人、家族との面談を行い、不安な事や要望を聞き取り、サービスに活かしている。また家族の介護負担が軽減できるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時に本人、家族の意向を確認し、必要なサービスを見極め提供、助言を行っている。	面談時に本人、家族の意向を確認し、必要なサービスを見極め提供、助言を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と家族の絆を大切に、日々の様子を電話連絡や広報誌で知っていただき、面会時には家族とのコミュニケーションを図り、情報を共有し一緒に支える関係作りにも努めている。	日々の生活において、職員と共に家事手伝いをして頂いている。また利用者職員が同じテーブルで食事を摂り、お話しできる機会を設けている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の理念のもと、日々の生活において一緒に家事をや食事をする中で、調理法や味付け、掃除の仕方などの知識を教えていただいたり、色々なことを学びながら日々利用者に寄り添う介護を行っている。	定期的に本人の日々の生活の様子を連絡する事で、共に支えていく関係を築くよう努力している。家族には、生活状況を報告し、要望も聞き関係作りを図っている。		

H29.1自己・外部評価表(GHこころ)

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方の訪問は温かく迎え入れ、プライベートスペースに案内し心地よく過ごして頂けるよう配慮している。 携帯電話による連絡の支援も行っている。	行事では、家族にも参加して頂き、面会時にはお落ち着いた雰囲気の中でゆっくりと過ごされるよう、プライベートスペースに案内している。 また、馴染みの近所の散歩なども実施している。	近隣からの入居者の元からの友人が継続して訪ねてきてくれたり、家族の来訪も半数近くは毎月来られている。個別ケアで本人が興味をもつ近くの図書館や道の駅にお連れする方もいる。元々農家の方で菜園のお世話などでもできる方に手伝ってもらうこともある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション、外出行事等への参加を呼びかけ、利用者同士が関わり合い楽しい時間を共有できるように支援している。 利用者同士トラブルになることもあるが、職員が中に入り、その時々に見合った対応を行い、利用者同士が支えあえるような支援に努めている。	体操やレクリエーション、外出行事等の参加を呼びかけ、利用者同士が関わり合い楽しい時間を共有できるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的ななかかわりを必要とする利用者や家族に対しては、必要により電話相談や情報交換等を実施し支援している。	継続的な関わりを必要としている利用者や家族に対しては、電話相談や情報提供を実施し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を把握し、利用者本位の生活が送れるよう努めている。本人が意思の表出が困難な場合でも本人の思いをくみ取るよう努めている。	本人の希望や意向を把握し利用者本位の生活が送れるよう努めている。本人が意思の疎通が困難な場合でも、家族に協力して頂き本人の思いをくみ取るよう努めている。	管理者と計画作成担当者が兼任で、アセスメントとケアチェック表の作成も受け持っている。一年程度で定期的に見直し、変化があった際には随時にも行っている。入居時には3ヶ月程度の短期見直しもしている。毎月のカンファレンスなどで現場の職員の意見も聞きながら、集約して記録している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、居宅ケアマネなどからこれまでの生活について聞き取りアセスメントを作成し、職員全員が熟知できる体制をとって把握に努めている。	本人、家族、居宅ケアマネなどからこれまでの生活について聞き取り、アセスメントを作成している。それらを熟知できる体制をとって職員全員も把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子はケース記録、申し送りなどを通して把握するように努めている。毎月の定例会では状態の確認を行っている。	日々の様子はケース記録、申し送りなどを通して把握できるように努めている。毎月の定例会では、状態の確認を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医からの情報をもとにサービス担当者会議を行い、介護計画を作成している。担当者会議は、定例会の中で職員参加で行っている。	本人、家族、主治医からの情報をもとにサービス担当者会議を行い、介護計画を作成している。担当者会議は、職員参加の定例会会議の中で行っている。	基本的なプラン作成、毎月のモニタリングなどは全て管理者が担当している。プランはいつも見られるところに設置し、目を通し、ケース記録にもプランに基づいた支援が出来るようにしている。最近使用しているプラン作成ソフトの講習に行き、拡張機能の学習をしてきており、今後プラン実施などに役立つ考えである。見直し時に担当者会議も開き、看護師も参加されている。	プランに則したケース記録を残すために、ケアプランごとの実施チェックを行い、職員が主体となってプランに則ったケアにつなげ、目標設定やモニタリングに活かされることが期待される。

H29.1自己・外部評価表(GHこころ)

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は細かく記録し、介護計画は定期的に話し合い見直している。情報は職員全員が共有できるようにしている。	日々の様子は細かく記録し、介護計画は定期的に話し合い、見直しをしている。情報は職員全員が共有できるようにしており、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の個々のニーズに合わせて支援している。家族の要望にも傾聴し対応している。	利用者や家族の要望があれば、可能な限りできる範囲で個々のニーズに合わせて支援し、対応するようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアから慰問を受けたり、近所の方と一緒に消防訓練などを行っている。子供神輿や近隣神社の神主の来所もある。	地域のボランティアから慰問に来て頂いている。また近所の方が離設された利用者に対して、声掛けして頂けるよう普段からお願している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関と常に連携を図り、受診等の対応をしている。体調変化時も早急に対応できるようにしている。	本人、家族が希望する医療機関と常に連携を図り受診等の対応をしている。体調が変化した時は、早急に対応できるようにしている。	元からのかかりつけ医を継続される方も多く、事業所から看護師や管理者が通院介助している。希望されれば事業所の提携医が往診してくれる。家族への報告も随時行い、所内での情報共有はケース記録の中、家族には随時変化があった際に連絡する。看護師も常勤で健康管理などは日々行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の正看護師がおり、受診、服薬状況、健康管理を行っている。健康状態を把握し、介護職員に適切な受診や看護を受けられるよう指示を行っている。看護師が休みの際は、いつでも対応できるように電話連絡にて指示を仰いでいる。	常勤の正看護師がおり、受診や服薬状況、健康管理を行っている。健康状態を把握し、介護職員とも情報の共有を図っている。看護師休みや夜間時の急変時には、いつでも対応できるよう電話連絡できる体制を整えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院のソーシャルワーカーなどと連携を図り、定期的に状態把握に努めている。退院の際は退院後のケアなどについても情報提供を受けている。	入院時ご家族様や担当看護師、ソーシャルワーカーとの情報の共有し、面会等行っている。退院時には退院後のケアについても病棟関係者、家族と話し合い連携をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の介護、看護体制、できること、できない(現段階では看取りを行っていないこと等)を家族に説明し同意を得ている。	重要事項説明書に重度化した場合の指針を記載し契約時に説明をしている。可能な限り介護できることまで一緒に生活できることを家族に説明同意を得ている。常勤の看護師の配置し、かかりつけ医と連携を取りながら重度化に対応を行っている。	初期のころに看取った事例はあったが、基本的には看取りはしない方針で、家族にもその旨説明して合意を得ている。急変時は事業所の看護師に連絡して、外部の救急病院などで対応する。今後も基本的には難しいと考えてはいるが、今後の検討課題としてあげている。	事業所の方針として、看取りに関しての考えを示し、必要があれば対応の出来る提携医との協力や、看護体制などを職員で話し合っはどうか。契約時の説明などにも文書と説明が整合性が取れる形で統一されることにも期待したい。

H29.1自己・外部評価表 (GHこころ)

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の消防訓練時に消防署員の指導で心肺蘇生・AEDの使用訓練を受けている。勉強会で事故や急変時の対応について学んでいる。	消防署の協力のもと年2回、応急処置や心肺蘇生の方法などの知識や技術を学んだり、勉強会で習得している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 全職員、利用者、利用者、近隣住民の方を交えて消防署の指導による消防訓練を実施している。また自動通報装置やスプリンクラーを設置しており、緊急時の連絡網や電話対応マニュアルも掲示している。夜間の外部者の侵入や 利用者の離設による事故防止のため 門にセンサーカメラを設置し施設内から監視できるようにしている。	年2回職員、利用者による消防署の指導の下避難訓練の実施している。自動通報装置や、スプリンクラーの設置、緊急時の連絡網や、電話対応時のマニュアルを掲示している。	2回とも火災、夜間想定訓練を基本として行っている。すぐ近くの住民の方にも毎回声掛けし、参加されることもある。近隣の方が台風の際に避難相談してきたことがあり、必要時に受け入れられる旨伝えている。平屋建てであることで避難もしやすい。水、カセットコンロなどの備蓄物も備えている。台風時には早めに準備もする。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊敬の念を忘れず、誇りやプライバシーを損ねないように注意している。敬語と地域の言葉を意識して利用者一人ひとりに合わせた声掛けをしている。	職員の接遇や利用者の人権、尊厳について勉強会等で勉強し、見直しをするようにしている。	理念にも思いやりや尊敬に関して掲げており、接遇の研修機会も多い。相手に敬意を払いながらも、それぞれに合わせて方言や親しみをもってもらう働きかけを心がけている。おたよりや掲示での個人情報利用も説明の上同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と十分にコミュニケーションをはかり、思いや希望を聴き、日常生活の中の行事やレクリエーションに取り入れ実現できるよう支援している。	利用者と十分にコミュニケーションをはかり、思いや希望を聞き、日常生活の中の行事やレクに取り入れ、実現できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日常生活の何気ない会話にも耳を傾け、思っていることが引き出せるよう努めている。また負担にならないような言葉かけで自己決定できるように努めている。	利用者の希望を聞き取りながら、一人一人のペースに合わせて、その人らしく過ごされるよう職員が一緒になって支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り一人ひとりのペースを大切に希望に沿った過ごし方になるように支援しているが、時に難しいこともある。2ヶ月に一回近所の理容院に訪問してもらっている。希望者は職員が入浴時に髪染めを行っている。	二ヶ月に一度、理容院の訪問により散髪を行っている。また身だしなみができるよう、髭剃りや化粧水などを準備している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望や能力に応じて食事の下ごしらえを手伝ってもらっている。また おやつ作りにも参加して頂いている。食事は職員と同じテーブルを囲んで穏やかに楽しい食事の時間を共有している。	食事メニューを読み上げて頂き、好きな料理や食べ物を聞いている。またおやつ作りに参加して頂き作る楽しさを感じてもらっている。食事は職員と同じテーブルを囲んで、和やかに楽しい食事の時間を共有している。	常勤の栄養士とパート調理師がおり、メニュー作成と調理を行う。地の食材を使い、畑でとれたもの、地元の肉屋などから毎日仕入れ、新鮮なコメや野菜などを使った料理を提供し、喜ばれている。おやつをレク的に一緒に作ることもある。食事の感想やメニュー希望なども聞き、反映もさせている。	

H29.1自己・外部評価表 (GHこころ)

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活支援記録に利用者の食事摂取量、水分摂取量を記録し利用者の状態確認を行っている。本人の状態に応じて栄養補助食品の提供もしている。食事の形態、量は全員が同一ではなく状態に合わせて調整している。	生活支援記録に利用者の水分、食事摂取量を記入し、毎日利用者の状態を確認している。本人の状態に応じて、補助食の提供も行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 自力または介助にて口腔ケアを実施し、清潔の保持に努めている。歯科医と連携を図り利用者の状態を把握し情報を共有している。	毎食後、自力または介助にて口腔ケアを実施し、清潔の保持に努めている。歯科医と連携を図り、利用者の状態を把握し、情報を共有している。また歯科医から口腔ケアの指導も受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日 排泄状況をチェック表に記入し、状態把握に努めている。できるだけトイレで排泄できるように声掛けし支援を行っている。	毎日、排泄状況をチェック表に記入し、状態の把握に努めている。出来るだけトイレで排泄できるように声掛けや誘導を行い、支援している。	各ユニットで若干様式は違うが、全員分1日24時間の排泄チェックシートがあり、便秘の期間もわかるように記録している。トイレ排泄を基本にして、夜間もポータブルトイレなどなるべく座ってもらうようにしている。失敗の少なくなった方に対してパット量を減らしたり、負担軽減にも働きかけている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者全員の水分量を把握し、水分不足にならないように支援している。また健康体操などに参加していただき、毎日適度な運動を職員と一緒に取り組んでいる。	利用者の水分摂取量を把握し、水分不足にならないように支援している。好みに乳飲料なども摂られている。なるべく毎日の健康体操などに参加して頂き、適度な運動を職員と一緒に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めさせてもらっているが、希望があればいつでも入浴できるように配慮している。また入浴剤やゆず湯等で季節感を感じてもらっている。	曜日や時間を決めずに、ほぼ毎日入浴できるような環境を整えている。また入浴を楽しんでもらえるように湯加減を伺ったり、好みの入浴剤やシャンプーなども揃えている。	ユニットで共通の造りで広めの家庭用ユニットバスである。基本的には午前～午後で、3日に1回の入浴パターンで、汚染時などは随時対応もしている。拒まれた際も時間帯や担当も変えながら無理強ひなく、入浴回数はキープする。希望は少ないが勤務状態に沿った対応になることを理解してもらっている。皮膚状態などは看護師と共有して健康管理につなげている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活リズムに合わせて、日中に休息時間をとっていただいている。個々に声掛けを行い本人の意思を確認し安眠や休息を支援している。	利用者の生活リズムに合わせ、個々に声掛けを行い、休息時間をとって頂いている。本人の意思を確認し安心して眠れるよう、日中もなるべく居室で休んで頂いたり、ホール内にカーテンで間仕切りしたりして、休息場所を設けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師指示のもと薬の管理と服薬管理と服薬支援を行っており、状態の変化は常時看護師に報告している。記録を残し職員全員が情報を共有できるようにして日々の状態観察を合わせて支援している。	看護師指導の下、薬の管理と服薬支援を行っている。また薬の処方箋や医療記録などは、個人別にファイルにまとめ、いつでも職員が確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じた役割を担っていただき、日々の生活の中で家事手伝い等楽しみややりがいを見いだせるよう寄り添い支援していく。 本人や家族の希望で好みの菓子等を購入代行している。	日々の生活の中で家事の役割を担って頂いている。また毎月楽しんで頂けるような行事を企画し、天候が良い日は、散歩などで気分転換ができるよう支援している。		

H29.1自己・外部評価表(GHこころ)

自己	外部	項目	自己評価(A棟)	自己評価(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出を希望される利用者は少ないが、読書が好きな利用者と一緒に図書館へ行ったり地域のケーキ店でケーキを食べたりしている。	日常的な外出を希望される利用者は少ないが、体調などを考慮しながら外出行事を実施している。天候の良い日は、近所や園庭の散歩などにも参加して頂いている。家族との外出を希望される時は、本人の意向を家族に伝えている。	敷地内も広く、周辺も開けているため、気候のいい時期には近隣の散歩も容易にできる。系列事業所の車も利用することも可能で、全体での外出行事は年に1、2回行っている。個別に支援して買い物など行くこともある。施設の日当たりもよく、温かい時期は気軽に外気にあたる機会を作っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設が金銭管理を行っている。外出行事で買い物をする時は職員付き添いで支払の支援をしている。	施設が金銭管理を行っている。外出行事で買い物する時は、職員付き添いで支払の支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し家族や友達とやりとりをしている利用者もおられる。希望があれば職員が代わって電話を取り次いでいる。	本人から希望があれば、状況に応じて可能な限り対応するようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や外出時の写真を掲示したり季節感を感じられる飾りを飾っている。利用者が不安や混乱を招くようなものは排除するように心掛けている。	共用スペースに行事や外出時の写真や、レクで利用者と職員で作った季節を感じられるような装飾品を飾っている。利用者が不安や混乱を招くような物は排除するように心掛けている。また常に適温が保つよう、温度、湿度計も備えている。	ユニットはそれぞれ独立して一棟ずつが隣接して建っている。大きめのタイル貼で掃除も行き届いている。造りはほぼ共通で平屋建てだが天井も高く開放感がある。カウンターキッチンとリビングも隣り合っており、料理の様子も傍らに感じられ、ホールで過ごす方も多い。行事の写真や、作品なども飾られ明るくにぎやかな。周囲も田畑に囲まれ開けているため、どこにいても日当たりがよく気持ちの良い空間にされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファやリクライニングチェアを設置している。利用者がゆっくり談話できるようにしている。	テーブルの椅子席のほかに、ソファやリクライニングチェア一席を設け、気の合う利用者同士が談話できる場所として使ってもらっている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からお持ちいただいた物や本人にとって思い入れの強い物などは可能な限り施設内(本人の居室など)で使っていたり、過ごしやすい環境作りの一助としている。	自宅から持ってきた物や、本人にとって思い入れのある物は可能な限り、施設内(主に本人居室)で使って頂き、過ごしやすい環境作りの一助としている。	居室の広さはほぼ共通で、フローリングの洋間である。家具なども基本的には全て持ち込んでもらっている。介護ベッドなどが必要な際には自費レンタルで対応する。準備が難しい方には事業所から家具を準備することもあり、それぞれに合わせた環境での部屋作りをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で行えることは本人にして頂くよう声掛けしている。居室入口には本人が分かりやすい表札を掲げており、利用者が間違えないように工夫している。	自分で行える事は、本人にして頂くよう声掛けしている。施設内表示は大きな文字を使いイラストを交え、わかりやすいよう工夫している。		